



## 弱い子供を丈夫に

内藤 壽七郎

虚弱な子供、この分り切つてゐる様な、虚弱な子供と云うものが、医学的にはどう定義してよいかわからない。そこで虚弱な子供の研究もなかなか軌道に乗らない。それなら虚弱な子供と云うものは實在しないかと云うと誰もが知つての通り實在している。この子はどうも他の子供に較べるとすぐ風邪をひき易い。とか、或は一吋寒い日に会うともう気管枝炎を起してしまうと云う如き、或は同じものを食べているのに他の子はなんともないのにこの子だけ下痢をする。と云つた調子。そして年中幼稚園を休んだり、学校を欠席したりしている。この様に弱い子と云うものはたしかにある。それがどうして医学的に見た場合難かしいことになるか。之は虚弱児の原因が決して一つや二つでないことに原因する。

### 小兒 結 核

フベルクリン検査や血沈とか、X線の検査などの検査方法

が末だよく行はれなかつた頃のこと、小児が結核に自然感染した初期の症候、即ち時々不定の熱を出したり、食欲がなかつたり、下痢をしたりする。そして貧血があるので一応虚弱児童の条件を揃へている。併し之は結核の研空が進んだ今日では明に小兒結核と云う部類に属す可きであつて虚弱児童と云うことは出来ないものである。又小兒結核として治療を、即ち安静とか或は化学療法とかを適當に施すことによつて虚弱ではないのである。

### アレルギー素質虚弱体質

私は子供の頃は大変弱かつたが、成人したら非常に丈夫になつたと云う様なことをよく云う人がある。子供の時は三日と健康な日は続かなかつたと云うのである。この様な人はおそらく幼見時代に其の体質として過敏体質、或はアレルギー体質があつたのであろう。例えば風邪をひき易かつたと云う

様な場合であると、一寸したことで咽頭は赤くなるし或はお医者者に診せる度毎に咽が赤い、咽が赤いと云はれていたのであらう。之などは咽の粘膜が弱いと云うよりも咽頭粘膜のアレルギーであつたと思はれる。この様な咽頭粘膜のいつも赤い様な子供は気管や、気管枝粘膜のアレルギーもある。風邪をひく度にぜい／＼と云つたり、風邪をひけば必ず気管枝炎を起さないと治らないと云う様な「くせ」があつたりするのである。又くしやみをすると十も二十もつづけ様に出て鼻水が沢山出て一度に数枚のはんかちを要する人がある。之などは神経性鼻炎とか或はアレルギー性鼻炎とか云はれているものだが本人は只風邪をひきやすいと思ひ込んでゐる。

### 腸の弱い子

腸の弱い子と云うのは、既に乳児の時期からある。牛乳をのませるといつも下痢をすると云う乳児は決して希でない。離乳期に始めて卵を与えた時に、下痢をして以後卵を与えるると下痢をするとか、或は吐くとか、時には蕁麻疹が出来るとか云うこともあらう。蕁麻疹でも体の表面に出来る、アレルギー性と云うことを考えるが、只下痢をするのでは多くの場合アレルギー性と云うことよりも、この子はお腹が弱いと云うことになる。吐けば胃が弱いと云うことになつてゐる。殊にその下痢と云うアレルギーの病状を起した食物が、牛乳鶏卵とか云う様な普通ありふれた食べ物である場合は全く原

因の不明な下痢として片づけられ、この子の腸が弱いと云うことにされてしまふ。それだけなら末だしも、神経質な家庭では、食事の量の制限が行はれる。ひいては栄養失調と云うことになる。

アレルギー性體質の下痢は食物の量を制限するより、抗ヒスタミン剤の内服とか注射をして見ると割合に速やかによくなるものであるし又、食物をよく注意して見ると下痢を惹き起したと思える食品をつきとめることも出来る。例えばよくある牛乳に過敏であつて牛乳をのむと下痢をするとか便がゆるむと云うこともよくあることだし、又鶏卵に合はない子供も少なくない。或は時には味噌汁を与えると下痢をすると云うのもあれば、納豆をたべると下痢をすると云うのもある。之等の場合氣をつけなければならぬことは、子供は必しも其等の食品を嫌いでないこと、否寧ろ好物であることもあることである。其等の下痢を起す食物は極く少量でも害をすることもある。或は、幾日かつづいて相当大量に与えたあと下痢をすると云うこともある。それで下痢の原因となつてゐる食品の発見が容易でない。牛乳に適はない子は牛肉にも合はないことがあり鶏卵に過敏な子供は鶏肉もよくないと云うことである。之等の下痢の原因の食物は子供の体に合はないからと云つていつまでも与えないでおけば子供は成人して後も一向に其體質はよくならず食べると下痢と云うことになるから之を治すには子供の体の調子のよい時を見てその食品を少

量宛——例えば牛乳なら一勺位を与えて見て、又一兩日してから今度はそれより少し多い目にと云う工合に段々と量を増して行くことである。そして其の食品に対して慣らししてやるそうすればもう牛乳をのんでも、或は牛乳で作つたものを食べても下痢することはなくなるでしょう。

之の様にくしやみをするとか蕁麻疹とか下痢とか云う様なアレルギー性の病状は今迄も知られていたことで、皮膚とか腸粘膜の変化ですが、茲に御紹介して見度いのは、副鼻腔粘膜のアレルギーです。副鼻腔と云う様な言葉は解り難い名前であるから少しく説明を要すると思う。昔からある所の著膿症、この膿は、鼻の両側或は額の所などにある小さな洞に膿がたまるとは、副鼻腔と云うのは之等の洞のことです。そして之の洞は骨で囲まれています。更にその骨の表面は粘膜で蔽はれています。この粘膜は鼻のそれと同じ様で、子供が風邪をひけば赤くなり、そして鼻と同じ分泌を致します。普通風邪の時鼻が出て鼻がつまることは誰でも気がつきそして鼻水がとれ一応鼻も通るとそれで風邪はもうよくなつたものとしていますが実はそうでなく、この副鼻腔と云う所の変化はいつまでも残つていて鼻の様なものを出します。それから鼻を垂らしているかと云えば決してそうでなく、この鼻は鼻の方に出ずに咽の奥を通つて胃の方に下つて行きます。睡つていと夜な〜鼻を多量にのみ込んでいと云う事になる。

## 微熱 兒童

話は少し変わるが昔から微熱兒童と云うものがよく云々された。そして色々の人によつて、この微熱は結核とも關係がないし又、体をよく診察しても別に微熱の出る原因が見つからない。そこで熱の出易い體質の子供と云うことにされていた。大丈夫だ、何もないと医師は云うが、併し七度二分三分と云う熱がいつも出る。幼稚園や学校に出さないで家に安静させていても出る。そこで一部の人は之を體質だと云い出した理である。放つておけと云うのである。成る程放つておいても其以上高い熱も出ず、併し何んとなく疲れ易い。食物もあまり欲しがらないので母親の気をもませたものである。之が後で述べるがやはりアレルギーであるし治療も容易である。

## 疲れ易い、根気のない子供

斯う云うのもある。一つことに長く根がつづかない。すぐ飽いてしまふ。じいつと坐つていて先生のお話を聞かず、所謂お行儀のわるい子と云う批評をうける。そして非常に疲れ易い。朝の食事が一日中で一番食べ方がよくない。この様な子供は決して少くない。私は七—八年前からこの様な子供を觀察していたが、それ等は申し合はせた様に、腓腸筋の所を握つて強く圧すと痛がる。——（ふくらはぎの所を足の力を抜かせておいて、きゆうとつかむと痛い）と云うのである。之は以前からVBI欠乏の時即ち脚氣病の時にある病状である。

そこで私はV<sub>B</sub>をこの様な子供達に内服と注射をして見たところあまり効果がない。更によく研究して行つたところ遂に之等の子供達の咽の奥にはよくうすい鼻汁(時には濃いこともあるが)長く下つて食道の方に垂れ下つてゐるのを見て、之が副鼻腔炎と関係あると考えた。そこでこの様な子供の鼻の両側或は額一部を指先で強く圧すと、痛いと言ふ。或は痛い表情をする。頭を後へ引いたりする。之の様なのは副鼻腔の粘膜の過敏症があり、又特殊な分泌液を出してゐることが想像されるのである。

### 副鼻腔粘膜のアレルギーと慢性気管枝炎

咳をする子供、殊に冬中咳がとれず、咳ばかりでなく、一寸風邪を引くといつても気管枝炎が起らなければおさまらないと言ふ様な子供が居る。之もいくらダイアチンや、オーレオマイシン、テラマイシンなどをのんでもよくならない。四月五月になると又忘れた様によくならずと言ふことを毎年繰り返してゐる。之も其の本当の原因は副鼻腔炎であるとされている。であるから之の副鼻腔炎をよくすればこの気管枝炎もよくなると言ふ関係がある。扁桃腺やアデノイドも或る程度この副鼻腔炎が原因となつてゐると云ふ。

青い鼻を垂らせば蓄膿症の疑を誰でも持つが鼻を垂れないアレルギー性の副鼻腔炎があるので、之は外に現れないし、又分泌液が膿汁でない限り耳鼻科の先生も蓄膿症とは云はれ

ないでしようし、一見健康児と云うことになる。併し前述の通りどこか弱々しく、疲れ易く、時には微熱も出す。時には腹痛もあり、下痢もし易いと云ふ所謂虚弱児に属する子供達は之又副鼻腔粘膜のアレルギーが原因している。その証拠はこの副鼻腔粘膜の分泌を少くするか或は全く止めると疲れ易かつた子は全く疲れを知らなくなり、根気のなかつた子は根気のない子となり、微熱はさつぱりと消えて二度と母親を悩まなくなるし、冬中気管枝炎もなくなるのである。副鼻腔の粘膜の過敏を抑える方法として色々あるであらうが、私は数年前から副鼻腔の上に当る鼻の両側とか前顔部に超短波をかける方法を応用した。毎日十分間、十回—二十回が大低目的を達する。いくらビタミンB<sub>1</sub>を注射しても効かなかつたのがビタミンB<sub>1</sub>の注射はおるか内服を全くしないでいて、最初血液の中のビタミンB<sub>1</sub>量が正常の二—三に減つていたのが全く正常になる。それはかりでない、十回—二十回超短波照射の間に食欲旺盛となり体重も五〇〇瓦—一〇〇〇瓦と増すのも稀でない。虚弱などどこかえ飛んでしまふ。

最後に申し述べ度いことは之の様な副鼻腔の粘膜のアレルギー性体質による虚弱児と云うものは全児童の三〇%以上あると云うことである。勿論其の程度の差は種々あるが、単に強壯剤やビタミン剤だけに依存せずともつと虚弱の原因を探究して処置をすることを提唱して止まないものである。

(著者、日赤中央病院小児科部長)